

白浜レスキューネットワーク通信 11月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://srnw.or.jp>e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

11月1日～11月30日

電話件数 102件

メール相談 4人

保護件数 0件

生活自立支援活動

11月1日～11月30日

滞在者数 12人(男性10人、女性2人)

○近くのコンビニに、女性がバイトに行くようになった。まちなかキッチンとの両立でがんばることに。初日、買い物に行くとオーナーに教えてもらっていた。自立へ一歩前進か。

○デイサービスとヘルパーの援助を受け、共同生活を守っている男性は、少しずつ寒くなってきていることから、部屋の温度の管理を隣の部屋の男性にしてもらおうようになった。元気に過ごしている。

○作業所に通い始めた男性は、夕食時に時々出てこないことがある。何かあると落ち込み引きこもる。おにぎりを届けながら、声をかけ、少しでも頑張れるように指導している。

○近くのコンビニに行っている男性は、落ち着いていると思う。夜の外出や金銭的なところで不透明さが出てこないように注意して見ている。

○お菓子屋さんに行っている男性は、まじめに仕事に通っている。これまで滞納していた税金などを毎月返済しながら自立へと頑張っている。

○糖尿病を患っている男性は、まちなかキッチンで働きながら、苦手なことに取り組んでいる。注文取りも慣れてきたようだ。

糖尿の数値は安定しているようだ。

○豆腐屋とまちなかキッチンと掛け持ちしている男性は、まちなかキッチンの仕事時間でお昼からの作業が減るため、新聞の夕刊配達も考え始めた。

○将来、自分の店を持ちたいと考えていた男性は、このまま、まちなかキッチンで働くのも悪くないかなと考えていることが分かった。チャレンジ精神よりも安定を願っているようだ。時間をかけて話していこうと思う。

○まちなかキッチンとホテルでの仕事を両立させたいと思っていた男性は、ホテルへのこだわりを捨て飲食店など他のサービス業も視野に入れて職安に通うことになった。

○まちなかキッチンで職業訓練を受けている男性は、自分の欠点を認められるようになり、自分で変わろうとするようになってきた。

周りとの人間関係、特に自分から発信する内容に注意して言葉遣いや態度を変えていこうと話している。

○70代の女性は、教会の中や外の花を手入れしてくれていて、とてもきれいに管理してくれている。毎月の病院への通院も順調で、よく散歩にも出かけられるようになってきた。

○中国人の女性は、体調があまりよくない状況が続いている。

○4月からコペルくんや夜コペに入ってもらっている男性は、自分だけの判断で動いてしまい、責任者の意図とは違うことを始めてしまうことが多く、その都度、話し合いを持っている。この程度のことは聞かずに判断できる者でありたいと思うらしい。

○共同生活の食事を、シェアハウスとまちなかキッチンで行っていたが、今月後半からエジソンハウスで行うことになった。

自殺予防活動

・フードバンク&フードドライブ

第4火曜日に、グルメシティの各店舗を回らせてもらった。社協や田辺の福祉団体からの依頼で食材の提供を行った。

まちなかキッチンの無料のお弁当は、毎日ひとりの男性に提供している。

・放課後クラブ・コペルくん

月曜日から金曜日まで、3~7名の子どもたちが利用した。

・コペルくん+

4名の子どもたちが利用している。4人ともいところ同士で、家庭がそのまま、当NPOに移ってきたという感じになり、特別感がなく、人の家に来て過ごす良さが半減していると感じている。

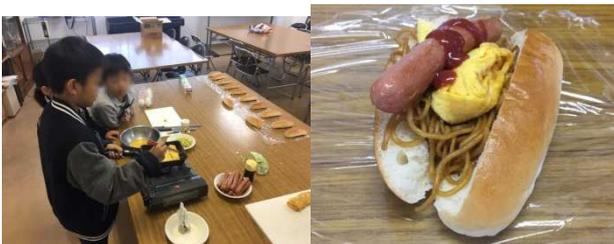
・夜コペ

月、水、金、夜8時から10時まで変わらず行った。4名の中学生が参加している。

・相談電話

7日、14日、21日、28日に行なった。今月も1人の相談員が休まず電話相談にあたった。

・はじめ人間自然塾



11月24日(土) 秘密基地の固定と平草原で秋を見つけようという企画で行った。

・スタッフの婚約式



11月17日(土) 午後2時から、来春3月にご結婚予定のスタッフの婚約式を行った。お相手は、橋本市にあります橋本バプテスト教会の牧師。コペルくんの活動に来ていた子どもたちもお祝いに来てくれた。

・少年少女漂流隊



白浜第一小学校で行っているクラブ活動「少年少女漂流隊」で、今回は、災害時の炊き出し訓練も兼ねて、火起こしと、アレルギーの子がいても大丈夫なように、袋で小分けして煮るお鍋を作って食べた。

野菜からこんなに水分が出るんだ、また出汁が出て味がするんだと、子どもたちも驚きながら、体験できた。